

機関番号：14501

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2009 ～ 2011

課題番号：21710262

研究課題名 (和文) 上座部仏教社会における女性出家形態の変容と比丘尼復興—タイ・スリランカ比較研究—

研究課題名 (英文) Development in religious women's renunciation style and restoration of bhikkhuni sangha: Thailand and Sri Lanka

研究代表者

伊藤 友美 (ITO TOMOMI)

神戸大学・大学院国際文化学研究所・准教授

研究者番号：40337746

研究成果の概要 (和文)：本研究では、連続した比丘尼サンガを継承してこなかった主要上座部仏教国であるタイとスリランカの二カ国で、1990年代末以降、新たに創設・拡大が図られている比丘尼サンガの復興の動きを比較・検討した。特に、スリランカでは多数の主要な女性修行者が比丘尼に移行し、比丘尼サンガ復興の動きが大勢を占めているのに対し、タイでは比丘尼になる女性の数が比較的少数にとどまっている要因について、調査・考察を行った。スリランカでは、男性出家者の比丘と比較すると、女性修行者の宗教的・社会的地位及び役割は、相対的に低位にあると考えられてきたものの、女性修行者の中にも大きな格差があることが分かった。有力な女性修行者が、比丘の寺院から独立した独自の尼僧院を持ち、そこを拠点として弟子の育成・近隣コミュニティのための宗教活動を行うなど、比丘とそん色ない役割を果たしている一方で、困窮した女性修行者は、参拝客の多い寺院の境内で物乞い同然の生活を送っていた。スリランカでの比丘尼サンガ復興は、有力な女性修行者が集団で比丘尼に移行することにより、比丘尼が社会に定着したと考えられる。他方、タイの女性修行者は、比丘の強力な宗教的権威・影響力のもとにあり、スリランカの女性修行者ほどの自律性が確保できない状況にあると言える。そのため、比丘尼となるタイ人女性は、有力な女性修行者からなる団体に属さない意欲的個人に限られており、タイでの比丘尼への移行はスリランカほど容易ではないと考えられる。

研究成果の概要 (英文)：This study has examined and compared the movements for restoring bhikkhuni sangha in the two major Theravada Buddhist countries: Thailand and Sri Lanka, both of which did not inherit the successive female orders to the present, but only recently attempted the new launch since the end of the 1990s. In Sri Lanka, many renowned female practitioners have ordained as bhikkhunis, and the bhikkhuni ordination has already become a new norm in the society, whilst in Thailand, there are still only a few dozens of Thai women who have taken the new option for their renounced Buddhist practice. This study has explored the reasons of rapid expansion and limited growth of bhikkhuni ordination in the two countries. As a result, the study has revealed that in Sri Lanka conventional female practitioners were not only considered relatively lower in their religious and social status compared to fully ordained monks called bhikkhus, but they also had a significant gap in financial status and social standing among themselves. On the one hand, female practitioners of high social standing have had their own nunneries independent from male bhikkhu monasteries, trained their own young female disciples, and performed their religious roles for the neighboring lay Buddhist communities. Their religious activities have been not so much different from those of male bhikkhus. On the other hand, financially deprived female practitioners were forced to live as beggars in the premises of famous large monasteries where many lay Buddhists visited for their alms giving. In the background of rapid expansion of bhikkhuni ordination in Sri Lanka, there was a group of well-established female practitioners who were ready to take the new option for their religious life. Whilst in Thailand, even the most consolidated group of female practitioners are under the strong religious authority of bhikkhu sangha, so most of them have to maintain careful attitudes toward male monks. It is only a limited numbers of highly motivated individual Thai women independent from bhikkhu sangha's authority, who can take the courageous step forward to become ordained as bhikkhunis. Therefore, in Thailand transition to bhikkhuni ordination is not as smooth as in Sri Lanka.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2010年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：東南アジア地域研究

科研費の分科・細目：地域間比較研究

キーワード：上座部仏教・メーチー・比丘尼・タイ・スリランカ

1. 研究開始当初の背景

タイ・スリランカ両国とも、比丘尼サンガが不在だった近年までの数百年から 1000 年ほどの間、世俗を離れた出家修行生活に関心のある女性たちは、仏教における「出家者」としての地位に着くことができず、「在家者」としての地位にとどまりながら、家庭生活・職業生活を離れ、在家戒の八戒ないしそのヴァリエーションに当たる戒を厳密に守ることによって、事実上、出家と同等の修行生活を送っていた。上座部仏教社会では、こうした女性たちは、タイでは「メーチー」、スリランカでは「ダサシルマター」、一般には「女性修行者」と呼ばれる。タイにおいても、スリランカにおいても、女性修行者は、男性出家者の比丘や初期仏教において存在した女性出家者の比丘尼と対等の存在とはみなされず、比丘が一般在家コミュニティから十分すぎるほどの物質的・経済的サポートを受け、社会的に高い尊敬を受けているのに対し、女性修行者は比丘が行う宗教活動の補佐的役割に留まるものと考えられてきた。こうした問題を解消するため、サキャディーター国際女性仏教徒会議など、国境や宗派を変えた仏教の尼僧や仏教徒女性が抱える問題に取り組む団体では、女性修行者が男性出家者の比丘と対等な女性出家者の比丘尼へと移行することで、仏教におけるジェンダー間不均衡の解消と女性の宗教的役割の拡大を期待し、比丘尼サンガ再興を目指す運動を展開してきた。

2. 研究の目的

これまで、国際的な女性仏教徒の運動は、仏教諸派の尼僧として出家した西洋人女性

や英語を自由に操るアジア仏教国の女性たちがオピニオン・リーダーとなり、比丘尼の戒脈を継承している東アジア仏教諸国の比丘尼と、比丘尼の戒脈が現代まで継承されてこなかったチベット仏教圏・上座部仏教圏の尼僧・女性修行者を橋渡しする形で展開し、問題意識と現状打開のための具体的方策の検討が先行してきた。1990年代末以降、上座部仏教圏のスリランカやタイで比丘尼となる動きが進展したが、その展開は決して一様ではなく、それぞれの社会的文脈によって、比丘尼サンガ復興がもつ意義が異なっていると考えられる。そこで、本研究では、10年足らずのうちに在来の主要女性修行者の多数が比丘尼に移行したスリランカと、比丘尼受戒の拡大が慎重な展開を見せているタイを比較し、両国における女性修行者の社会的位置づけとローカルな伝統との接合を具体的に明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

本研究では、タイとスリランカで比丘尼となった元女性修行者の尼僧院および比丘尼となることに慎重な女性修行者の尼僧院においてフィールドワークを行い、インタビュー調査と統計データ・関連刊行物の収集・分析するという手法を用いた。特に以下の3点に着目した調査を実施した。

(1) 在来の女性修行者が行ってきた地位向上のための改革運動と比丘尼サンガ復興運動との連続性ないし乖離の度合い。

(2) それぞれの社会における宗教的権威である比丘サンガの体制と新興仏教集団の社会的位置づけ。

(3) それぞれの社会における比丘尼サンガ

復興運動に対する社会的反応。

また、調査の過程で、タイには、主流をなす上座部仏教の女性修行者とは別に、タイに移民として定着した華人の宗教コミュニティの中に、齋食（ベジタリアンの実践）を中心とした女性修行者が存在し、その中に「比丘尼」を名乗るものが存在することを突き止めた。こうした現象は、近現代台湾における比丘尼サンガの展開の歴史に極めて類似した現象と考えられるため、タイ・スリランカの上座部仏教の女性修行者の調査と並行して、その宗教的・歴史的背景に関する調査を実施した。

4. 研究成果

本研究を通じて明らかになった重要な点は、上述の「研究成果の概要」に記したとおりである。その要点については、特に下記〔学会発表〕の②および④にて論じているが、未だ刊行物として発表していないため、今後、英文・和文で研究論文を執筆し、国内外の学術雑誌で公表する予定である。その他、本研究による成果は、以下に挙げる研究業績を参照されたい。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計8件）

① Tomomi Ito, “Questions of ordination legitimacy for newly ordained bhikkhuni in Thailand,” *Journal of Southeast Asian Studies*, 査読有, 43(1): 2012, 55-76.

② 伊藤友美 「スリランカ・タイにおける女性修行者と八戒実践の諸形態」『パーリ学仏教文化学』査読無（依頼）、25: 2011, 117-137.

③ 伊藤友美 「タイ華人の習合的信仰世界における仏教と道教の境界についての小考察」『タイ国情報』査読無、45(3): 2011, 83-93.

④ 伊藤友美 「バンコクに暮らすタイ華人の春節」『タイ国情報』査読無、44(3): 2010, 128-146.

⑤ 伊藤友美 「バンコクの九皇齋とタイ華人の信仰（後篇）」『タイ国情報』査読無、44(2), 2010, 89-99.

⑥ 伊藤友美 「バンコクの九皇齋とタイ華人の信仰（中篇）」『タイ国情報』査読無、44(1): 2010, 110-127.

⑦ 伊藤友美 「バンコクの九皇齋とタイ華人の信仰（前篇）」『タイ国情報』査読無、43(6): 2009, 29-40.

⑧ 伊藤友美 「現代タイ上座部仏教における女性の沙弥尼出家と比丘尼受戒一理念のアピールと語られない現実一」『東南アジア：歴史と文化』査読有、38: 2009, 64-105.

〔学会発表〕（計4件）

① Tomomi Ito, “Dhammic Socialism: A Buddhist vision of just social order in 1970’s Thailand,” The XVIth Congress of the International Association of Buddhist Studies, 23 June 2011, Dharma Drum Buddhist College, Taiwan.

② Tomomi Ito, “Launch of bhikkhuni order in Thailand: Monastic education and establishment of tradition,” 12th Sakyadhita International Conference on

Buddhist Women, 16 June 2011, Sathira Dhammasathan, Thailand.

③伊藤友美「スリランカとタイにおける比丘尼サンガ復興と僧院教育」パーリ学仏教文化学会、2010年11月27日、駒澤大学。

④Tomomi Ito, "Pioneering bhikkhunis in contemporary Sri Lanka and Thailand," 11th Sakyadhita International Conference on Buddhist Women, 28 December 2009, 普光寺、ベトナム。

〔図書〕(計2件)

①Tomomi Ito, *Modern Thai Buddhism and Buddhadasa Bhikkhu: A Social History* (Singapore: National University of Singapore Press, 2012), 単著, 査読有, 389頁.

②木村文輝(編)『挑戦する仏教—アジア各国の歴史といま—』法蔵館、2010年、分担執筆 165-178頁。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

伊藤 友美 (ITO TOMOMI)

神戸大学・大学院国際文化科学研究科・准教授

研究者番号：40337746

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし